

事業所理念		私たちは、「愛と感謝と奉仕」の経営理念のもとに、地域共生社会の実現に向けて、世代や障がいの有無を問わず、ご利用者のご家族の多様なニーズに対応し、すべての人がキラキラと笑顔で過ごすためのパートナーを目指します。 人と人とのつながりを大切に木田の里をとりまく地域社会の福祉向上に貢献します。			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ◆一日の生活や活動を通して、お子さんが安心して過ごすことができるよう、笑顔あふれる、あたたかな雰囲気を作り、人と関わる楽しさや嬉しさ、人から愛される力や社会で生きていく力を様々な遊びの中で育みます ◆支援者の心のこもったコミュニケーションで、お子さんの小さな発見や感動をお互いに喜び合い、心通う豊かな人間関係を作ります ◆お子さんの好きなこと・得意なこと・好きな遊びの中からヒントをもらい、興味を広げていくことで、できることを増やし、その子らしさを伸ばしていく支援を大切にしていきます 			
営業時間		8:30～17:30 (サービス提供時間 9:30～16:00)		送迎実施の有無	
				あり なし	
支援内容					
		1期(4～6月)		2期(7～9月)	
		3期(10～12月)		4期(1～3月)	
本人支援	健康生活	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた生活リズムの中で毎日を過ごす ・手洗い、うがい、歯みがきを覚え、体を清潔にする ・担当の支援者と一緒に給食やおやつを食べ、食事のマナー(椅子に座る・よく噛んで食べる)を身に付けていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・汗をかいたらシャワーで体を清潔にし、衣服の着脱を一人でやろうとする ・布パンツで過ごしたり、トイレに行き排泄したりしようとする ・疲れたら体を休めたり、午睡したりして休息を取る大切さを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事中に箸やスプーンの食具を使って食べたり、苦質な食材にも挑戦したりしようとする ・靴や靴下を自分で履き、身支度を一人でしようとする ・鼻水が出たら支援者に拭いてもらって気持ちよくなることを覚え、自分でも鼻をかんでみようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でトイレに行き、排泄の始末ができるようになる ・朝と帰りの身支度を支援者に促されてできるようになったり、友だちの姿を見て一人でやろうとしたりする ・上着の着脱を覚え、ボタンやファスナーを一人でやろうとする
	運動感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びや散歩を繰り返し楽しむ中で、丈夫な体作りをする ・サーキット遊び、スイング遊びを通して段差を歩く、手足を使って山を登る、体を揺らすなどの動作を経験し、体全体の使い方をコントロールする力や姿勢の保持ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂、水、粘土、絵の具などのいろいろな感触の素材に触れ、感触の違いを楽しみ、その感触に慣れていく ・水遊びや紙吹雪遊び、リズム遊びを通して、体をダイナミックに動かすことを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・リトミックの中で合図の音を聞いて体を動かし、走る、止まる、四つ這いや高這いなどを経験し、手足の力のコントロールができるようになる ・はさみ、のり、スタンプなどの道具を使った製作やブロックや積み木で遊ぶことで、つかむ・つまむ、量を加減するなどの手や指の操作ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い運動場や公園の大きな遊具で遊んだり、体を動かすことで全身運動をおこない、体のバランス感覚を身に付ける ・指先を使った遊び(ペグ刺し・トング遊び・ぼっとな落とし・スプーン遊び、ひも通しなど)に集中して遊び、手と目が協応できる
	認知行動	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムタイマーを見たり、音を聞いたりして、活動の終わりが来ることや時間の感覚がわかり行動しようとする ・絵カードを見て、今からおこなうことや場所や順番を知ろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・色水遊びや絵の具遊びをする中で色に興味を持ち、同じ色、混ざった色がわかるようになる ・水の量の「多い・少ない」を遊びの中で実感したり、戸外の「暑い」、氷の「冷たい」などを感じたりして覚えようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり拾いや玉入れを経験する中で、数を数えることに興味を持ち、数の概念を知る ・物の大きさに「大きい・小さい」という概念があることを知り、支援者と一緒に考えたり、選んでみたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・色合わせカードや形合わせカードを使い、同じ色や形がわかり、色や形の名称を覚えようとする ・タンバリンや鈴に触れ、音を鳴らしたり、音楽に合わせてリズム打ちを楽しんだりする
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日聞く決められた台詞を理解し覚え、言葉や動作にすることを楽しむ ・『おはようの歌』『帰りの歌』を覚えて、友だちや支援者と一緒に歌ったり、支援者の真似をして身振り手振りすることを楽しんだりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や帰りのあいさつ、食前食後のあいさつがあることを知り、言葉や身振り手振りで伝えようとする ・やってほしいこと、伝えたいことを言葉や身振り手振りで支援者に知らせ、気持ちを受け止めてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや支援者と一緒に手遊びをしたり、歌を歌ったりする中で、声を出す楽しさを感じ、表現してみようとする ・友だちと簡単な言葉でやりとりをしながらごっこ遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に興味を持ち、台詞を言おうとしたり、繰り返しの言葉を声に出してみたりする ・行事を通して「うれしい」「こわい」「たのしい」などの気持ちを感じ、言葉やしぐさで伝えて支援者に受け止めてもらう
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを見つけ、支援者と関わりながら遊ぼうとする ・支援者に気持ちを汲み取ってもらい、保護者や慣れた支援者以外の大人も信頼しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏ならではの遊びを友だちや支援者と一緒に楽しみ、遊びにはルールがあることを知る ・できるようになったことを支援者に褒めてもらい、ほめてもらうことのうれしさを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこやかくれんぼ、かけっこを支援者や友だちと一緒に楽しみ、簡単なルールを覚えようとする ・遊びの中で「順番に遊ぶ」「10を数えたら交代をする」というルールを知り、順番を待てば自分の番が来ることがわかるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちにも気持ちがあることに気付き、喜怒哀楽を共有しようとする ・友だちと一緒にダンスをしたり、表現遊びをしたりする中で『友だちと一緒に遊ぶと楽しい』と感じるようになる
行事		はじめましての会(保護者参観)、こどもの日の集い、保護者参観、市の広域訓練(5月)、身体測定・避難訓練(毎月)、誕生日会(対象月)		たなばた会、なつまつり、不審者訓練(8月)	
				ハロウィンパーティー、秋の遠足、きだりんびっく(運動会) 焼いもパーティー、みかん狩り、クリスマス会、不審者訓練(11月)	
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・療育の様子を丁寧に伝え、保護者との信頼関係を築き、保護者の不安や悩みに寄り添うことで解決方法を共に考えていく ・家庭での様子を ICT システム HUG や対面で伝えていただき、子どもたちの情報を共有し、療育に役立てていく ・定期的に保護者参観や個別面談、グループ相談会、保護者向けの勉強会の機会を設け、保護者同士の繋がりを作ったり、家庭での関わり方を一緒に学び援助したり、きょうだい児の相談・支援をおこなう 		移行支援	
				<ul style="list-style-type: none"> ・夏頃に来年度の移行希望の確認をおこない、移行施設との連携を取っていく ・併設する保育所きだっこえんや地域の大田保育園と保育交流をおこない、同年齢の友だちと関わったり、遊んだりする機会を持つ ・子どもたちが安心して過ごすことができるように移行施設や小学校への引き継ぎや移行後の連携、情報共有をおこなう 	
地域支援 地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園や小学校の園庭や運動場で遊ぶ機会を持ち、地域の子どもたちと関わりを持つ ・自施設の高齢者デイサービスとの交流を通して、行事と一緒に楽しみ、おじいちゃんおばあちゃんの優しさに触れ親しみを持つ ・地域の農家の方の畑で収穫体験し、季節を感じながら地域の方と交流をおこなう ・地域の中学校の福祉体験教室の講師をおこない、児童発達支援の仕事内容を中学生に伝える ・子どもに関わる関係機関や福祉サービス事業所等と連携して子どもや家族の支援を進めていく 		職員の質の向上	
				<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、療育に関わる勉強会(視覚支援グッズの活用方法、子どもが落ち着く方法、発達段階の見極めなど)をおこない、半年後に振り返りを行っている ・1年に数回、外部講師を招き、職員の勉強会(歯みがき指導、ペアレント・トレーニング、視覚支援、エビベン研修など)をおこない、毎日の本人支援や家族支援に役立てている ・外部の研修会(発達障害基礎研修、感覚統合療法研修、児発管フォローアップ研修、強度行動障害支援者養成研修、災害時対応研修、虐待防止研修など)に積極的に参加し、職員間で共有して支援に役立てている ・地域の保育園の特別支援保育事例検討会でクラスの中の支援が必要な子どもの事例を学び振り返りをおこなっている 	